

の典型であろう。仕事で国内外を駆け回る移動型の生活ではなく、今ここで、ゆっくり、のんびり人生を楽しむ人々の定住の場所として城山はある。地域住民がゆるやかな関係性を保ち、豊かな交流を楽しむコミュニティとして地域社会が成熟していきたい。

②現在の諸制度を強化し支援する

あらためて調査すると、区長会、民生児童委員、小学校、PTA、学童保育、公民館、生涯学習推進員、社会福祉協議会などの諸制度が、コミュニティでは重要な役割を果たしてきたし、今も弱体化しつつあるとはいえ、重要な機能を担っている。この諸制度の現状と課題を丁寧に調査・把握し、それを支援することが、地方創生の第1に図られるべき支援策ではないか。特に、小学校区を単位にしたコミュニティ全体の未来を話し合う情報共有の

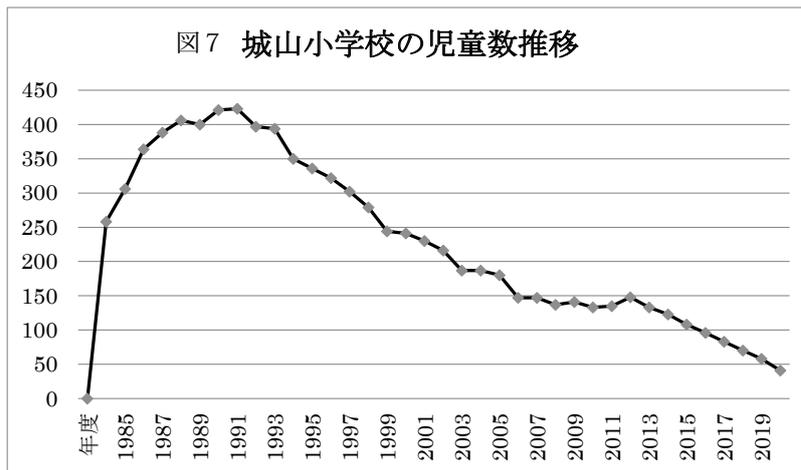
場づくりをいっそう強化する必要があるのではないか。

③子育て世代の声を地域全体で受けとめ活かす
子育て世代の声が、コミュニティ全体に届きにくい状態が続いている。とりわけ、若い女性の声がコミュニティの機能回復に活かされにくい状態が続いている。この現状を変えていかなければ、子どもが地域で育ちあうことができない。この課題を克服することが、地方創生の第2に図られるべき支援策ではないか。

④城山小学校「魅力化プロジェクト」を実現しよう

城山に生まれて成長していく子どもたちが減り続けると地域自体の元気がなくなる。近隣の子どもたちが、城山小学校に行きたくなくなるような小学校「魅力化プロジェクト」の立ち上げが必要だ。

■城山小学校の児童数推移



■5年間の児童数の推移

